

平成27年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立今泉小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「漢字を読む」に関する問題では、「信念」の正答率が高い。
- 「説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する」問題では、具体的な事例を挙げて説明文を書くことができる。
- 「オオサンショウウオの夏」という物語の問題で登場人物の相互関係を捉え物語を読むことができる。これは、授業において、登場人物の心情やその変化に留意して丁寧に読み取る学習を続けてきた結果の表れと捉える。

《努力を要する所》

- 「漢字を書く」に関する問題では、「浴びる」の正答率が低い。
- 文の主語として適切なものを選択する問題の正答率が低い。
- 新聞のコラムを読んで、筆者の体験が書いてあるまとまりを選択する問題の正答率が低い。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じて、新聞の割り付けとして適当なものを選択できる。
- 中心となる語の意味として、適切な内容を書き抜くことができる。
- 文章の要旨をまとめる問題では、文中の言葉「それぞれの人が自分で判断する」、「たがいのことを考えながら折り合いをつけていく」を使って、書き出しの言葉に続けて、指定された文字数で書くことができる。

《努力を要する所》

- 「中田とよさんへのインタビューの様子」で、2つの条件を満たして、取材した内容を整理しながらまとめて書くことの正答率が低い。
- 文章と【楽器の分担図】とを関係づけて、2つの条件を満たして自分の考えを書くことの正答率が低い。

今後の具体的な取組

- 漢字の読み書きに関しては、低学年からの積み重ねを重視し、また宿題等で繰り返し練習する習慣を身につけさせたい。
- 主語と述語、修飾と被修飾との関係などに注意しながら、文の構成について指導をしていきたい。
- 自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉や文字で表現する学習を重視する。併せて、ノート指導の充実も図りたい。
- 読み聞かせ等の読書活動を継続し、文学作品だけではなく広いジャンルの本を通してそのおもしろさに触れる読書活動の充実を図りたい。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- $5.21+0.7$ の計算の仕方を、 0.01 を単位として考えることができる。
- $6.3+0.22=6.52$ の答えの正誤を確かめる方法(加法の確かめとして減法が使われること)がわかる。
- 四則計算の中でも、 $28+72$ の計算は正答率が極めて高い。
- 提示されたグラフを読み取り、条件に合ったグラフを見つけることができる。

《努力を要する所》

- 180° より大きい角の大きさを測定する問題では、測定する角を確かめずに、分度器の目盛りの数値を答えてしまう誤答が多い。
- 円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める問題の正答率が低い。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 平行四辺形の性質を基に、4辺の組み合わせを選ぶことができる。
- 単位量当たりの大きさを用いて、最も安くなる買い方を選び、代金を求めることができる。
- 示された割引後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを記述することができる。

《努力を要する所》

- 条件を変更したときに面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めたり、その理由を記述したりする問題の正答率が低い。

今後の具体的な取組

- 四則計算に関しては、かけ算九九の確実な定着と、計算練習の積み重ねが大切であり、宿題等で反復学習に努めさせたい。
- 求積や作図では、視覚的に確認しながら理解を深めるようにする。教室に配置されているプロジェクターを効果的に活用し、指導を展開したい。
- 算数の考え方は実生活で使うことが多く、学習した内容が日常生活で活用できるような授業の工夫を今後とも心がけたい。
- 示された考えを、条件を変更した場面に適用し、問題を解決するために、「理由を添えて述べる」態度を身につけさせたい。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 顕微鏡やメスシリンダー等の実験器具の名称や「蒸発」等の科学的な言葉を答える設問の正答率が特に高い。
- 振り子が1往復する時間を変える要因を調べるために、どのような実験をしたらよいかを問う設問の正答率が高い。
- 観察記録や実験結果をまとめたグラフから、わかることを選ぶ設問の正答率が高い。

《努力を要する所》

- メダカの雄雌を見分ける設問の正答率が低い。
- メスシリンダーで定量の水をはかり取る適切な扱い方を答える設問や顕微鏡の扱い方を問う設問の正答率が低い。
- 析出する砂糖の量についてのグラフから考察し、記述して表現する設問の正答率が低い。
- 方位を判断するために、観察した事実と関係づけながら、情報を考察して分析する設問の正答率が低い。

今後の具体的な取組

- 科学的な言葉の意味を的確に捉え、日常生活に当てはめて思考する習慣を身につけさせるために、観察や実験の目的意識や視点を明確にした指導をしたい。
- 観察実験の際に実験器具を使用する場合は、必要な器具の名称とともに操作の意味を捉え、児童が適切な器具の扱いができるよう指導したい。
- 観察実験の構想や考察の時間に、説明や記述といった言語活動を通して、事象を関係づけさせたり、比較させたり、分析させたりするなどの学習活動を行い、科学的な思考力・表現力を高められるよう努めていく。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 家庭で、学校の予習をしたり宿題に意欲的に取り組んだりしている児童が多い。
- 「友だちの意見を最後まで聞いたり、友だちの前で自分の考えや意見を発表したりすることは得意」と回答した児童の割合が多い。
- 算数の学習では、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに工夫して書いている児童が多い。
- 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる児童が多い。
- 読書は好きである。（当てはまるが、全国49%、本校62%）

《課題と思われる所》

- 学校の授業などで、自分の考えを文章に書いたり、400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書いたりすることを難しいと思っている児童が多い。

生活について

《よかった所》

- 朝食を食べている児童が多い。（している、どちらかといえばしているまでを含めて、本校97.3%、全国95.6%）
- 友達や家族とのコミュニケーションが取れていると感じている児童が多い。
- 学級のみinnで協力して何かを成し遂げ、嬉しかったと感じる児童が多い。（当てはまるが本校64.6%、全国54.2%）

《課題と思われる所》

- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の設問で、当てはまると回答した児童の割合が全国平均より低い。（当てはまる、どちらかといえば当てはまるまでを含めて、本校が67.2%、全国76.4%）

今後の具体的な取組

- 家庭学習の習慣化については、これまでの取組を継続しながら、全学年で実施するように、各家庭に周知していきたい。
- 想像したことや経験したことを文章にしたり、また身近な事物を簡単に説明する文章を書いたりする言語活動を充実させたい。
- 学級活動や道徳の指導を通して失敗を恐れぬ心を育てていきたい。



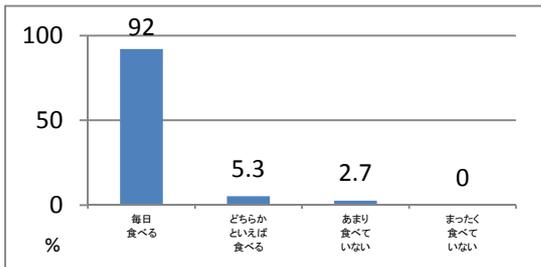
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 朝ご飯は一日の元気の源です。

毎日朝ご飯を食べて登校する児童の割合が高いです。これからも継続しましょう。

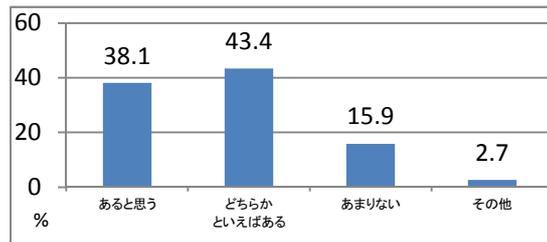
朝食を毎日食べていますか。



2 子どものよさを認めて褒めてあげましょう。

「あると思う」が昨年度よりも8%も増えました。褒められることで自分に自信を持ち積極性が培われます。これからも継続していきましょう。

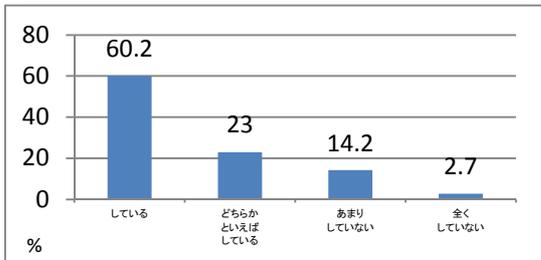
自分には、よいところがあると思いますか。



3 学校の様子を話題に、家族の会話を増やしましょう。

学校の様子を知ることができ、親子のコミュニケーションを高めます。今後も継続しましょう。

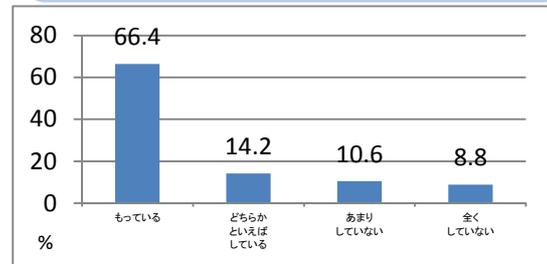
家の人と学校での出来事について話をしますか。



4 子どもと夢や目標について語り合いましょう。

比較的多くの子が夢や目標を持っています。今後も関わりを増やしていきましょう。

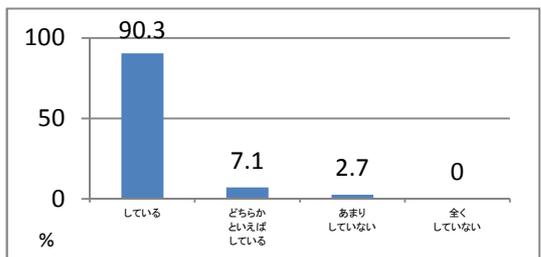
将来の夢や目標を持っていますか。



5 家庭学習は、学びを定着し学力向上に繋がります。

家で宿題をする児童の割合が高いですが、宿題以外の自主的な学習にも取り組んでいくとさらによいでしょう。

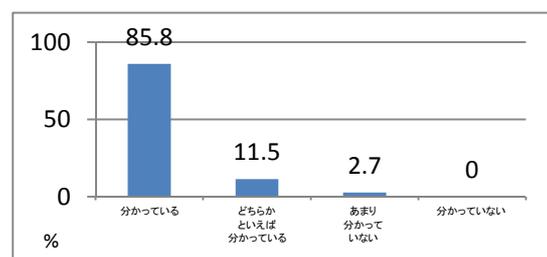
家で、学校の宿題をしていますか。



6 いじめは絶対にいけないことを伝えましょう。

友達との関わりなどについて話をする中で、今後もいじめは絶対にいけないことだということを伝えていきましょう。

いじめはいけないことだと分かっていますか。



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月